

## 県立国際中学校に関するQ & A (1月13日更新)

### I 教育課程・学習等について

Q1 中学3年間において、海外研修や留学等のプログラムを予定していますか？

A1 国際高校では現在世界の様々な国や地域の連携校を拡大しているところです。今後、中学生も参加できるプログラムも積極的に企画していく予定です。

Q1-① 海外留学に対するサポート体制はありますか？何人ぐらい留学できますか？ ←New!

A1-① 高校では、長期留学の際の単位を認定して進級する「在学留学」を選択することができます。留学の人数は特に制限を設けていません。

Q2 中高一貫教育となりますが、英語以外に第二外国語は教科に入りますか？

A2 中学校は学習指導要領に基づくカリキュラムと平行して国際バカロレア (IB) プログラムを行うため、科目として第二外国語を取り入れることは難しいですが、多様な文化や考えに触れることは国際中学校・高校の核となる部分です。教科等横断的な授業や学校行事などを通して、様々な国の言葉や文化に触れてもらいたいと考えています。

Q3 初年度から、国際バカロレアプログラムに即した学習になりますか？

地域の公立中学校と比べて、学びに関する大きな違い、または特色は何ですか？

A3 現在、MYP (ミドル・イヤーズ・プログラム) の候補校申請に向けて準備を進めています。開校当初は試行期間としてMYPと同様の内容を行います。学習指導要領に基づき、検定教科書を用いて学習しますが、学習の手法は大きく異なり、探究活動を重視したものとなります。また、英語は、教員免許を所有する英語を母語とする教員が担当し、国際高校と同様、少人数・習熟度別の授業が可能となるよう調整を進めています。

Q4 国際高校のiPadを用いた学習について教えてください。

A4 国際高校では、一人一台のiPadを授業や家庭学習で活用し、個々の学習到達度に応じた主体的・協働的な学びを進めています。予習では配信された課題に取り組み、学習動画を視聴するなどして授業に備えます。授業中は授業支援ソフトを用いて、リアルタイムにクラス全員と課題を共有したり、プレゼンテーションを行ったりします。iPadをあらゆる場面で生徒が工夫して活用しています。なお、中学校1年生から3年生までの期間はタブレット端末 (Chromebook) を貸与する予定です。

Q5 国際高校の英語の授業について教えてください。

A5 国際高校では、少人数・習熟度別で、英語圏の教科書を用いた質の高い授業を行っています。県立高校で唯一、教員免許を所有する英語を母語とする教員が5名在籍し、授業を行っています。プレゼンテーションやディスカッション、エッセイライティングなど多彩な活動で英語力を伸ばしています。

Q6 1期生はIB認定校ではない状態での卒業となる可能性があると思いますが、IB校を卒業したことになりますか？

A6 IB校として認定されていない状況であれば、IB校を卒業したことにはなりません。

Q6-① IB校の認定は、いつ頃とれる予定ですか？ ←New!

A6-① MYPプログラムについては令和7年度、DPプログラムについては令和8年度の認定を目指して準備を進めています。

Q7 MYPにおいて学習評価はどのようになされるのでしょうか？

A7 ペーパーテスト以外にレポートや発表、グループワーク、作品制作や表現活動など多様な活動を評価基準に基づいて評価をします。

**Q8** 自習室（1名教員常駐）を利用できますか？ 放課後などに先生に質問できますか？

A8 現在、高等学校では「ふかまる一む」という自習室を開設しています。下校時間まで使用できます。教員は常駐しておりませんが、質問がある時は各教科の担当教員が対応できるようにしています。Google Classroomを活用して質問をすることもできます。

**Q9** 英語の授業は週に何回くらいありますか？英語が得意でなくてもついていけますか？

A9 中学校1年生から3年生は週5時間です。英語は少人数で各生徒の習熟度に応じた授業を行っています。その他の学年の授業については、10月16日実施の授業体験の配布資料にある教育課程表を御覧ください。

**Q9-①** 英語に苦手意識がある場合、サポートはありますか？ ←New!

A9-① 英語は少人数で各生徒の習熟度に応じた授業を行っていますので、安心して学習してください。

**Q9-②** 実際の英語の授業でも、本日（授業体験）のようにネイティブの先生以外にサブの日本人の先生が付いてくださるのでしょうか。 ←New!

A9-② 日本人の授業、ネイティブ教員の授業、ティームティーチングの授業の3種類があります。この3種類のうちから、英語の習熟度や授業の内容によって最も適切な授業形態を選択します。

**Q9-③** 英語上級者には課題を出して勉強を深められるとのことですが、どういう形で授業されるのでしょうか。 ←New!

A9-③ 授業外の課題について、習熟度に応じた課題に取り組んでいきます。

**Q9-④** MYPでの授業では、英語以外のどの教科をそれぞれどれくらいの時間英語で学ぶ予定か教えてください。 ←New!

A9-④ MYPでの授業は基本的に母語での実施となるため、英語以外は日本語で学びます。

**Q9-⑤** 高3で英検準1級レベルとありましたが、学校外（塾ありき）でのサポートが必要とされないのでしょうか。それとも学校の授業だけで習得できる設定でしょうか。 ←New!

A9-⑤ 学校のカリキュラムの中で習得できるように学びを進めてまいります。

**Q9-⑥** 国際イングリッシュイマージョンについて詳しく教えてください。 ←New!

A9-⑥ 英語だけで様々なワークショップにチャレンジする国際高校独自のプログラムで、任意参加となっています。本年度は8月22日から25日の4日間、本校のネイティブ教員、ALTの先生が中心となって実施をしました。

**Q10** 高校までに取らなければならない英検などの資格はありますか？

A10 特に決まりはありませんが、高校卒業までに英検準1級取得を目標とします。

**Q10-①** 英語の資格として、どの検定に力を入れていきますか？ ←New!

A10-① 英語の技能を測る手段として、CEFRがよく用いられます。CEFRは、外国語の4技能（読む、聞く、書く、話す）の習熟度および運用能力を「A1」「A2」「B1」「B2」「C1」「C2」の6段階で評価します。A1が最も基礎レベルで、C2が最も高いレベルになっています。中学校1年生から高校3年生まで、様々な検定にチャレンジしながら、レベルアップを目指していきます。高等学校では、GTECを全員受験し、実用英語検定については対策講座なども実施しています。

**Q11** 中高一貫校ということで、中3で高校の内容を先取りして学習することはありますか？ ←New!

A11 中学校では、中学校の内容を探究的な学び方で深く掘り下げて学習します。高校の内容を先取りして学習することはありません。

Q12 単元別にテストがあるとのことですが、一般的な定期テストとの違いを教えてください。テストの内容も大きく違いがあるのでしょうか？ ←New!

A12 MYPでは、単元ごとに最終目標を定め、それに向けて学習を進めます。単元テストは生徒の到達度を測るものであり、一般的な定期テストのように知識だけを問うものではありません。

Q13 高校2年生で海外型クラスを選択すると、英語の授業以外も英語で行われますか？そのカリキュラムでは国内大学入試も対応できますか？ ←New!

A13 海外大学進学コースでは、「イマージョン理数」という科目を英語で実施しています。海外大学進学コースの1期生は、総合型選抜などさまざまな選抜方式を活用して国内大学に合格しています。なお、今後、国際バカロレアDPプログラムの認定に向けて準備を行います。DPプログラムに認定された場合は、英語以外でも2～3教科は英語で実施することになります。その際は、国際バカロレアのスコア等を活用し、国内大学へ進学することも可能です。詳しくは次のWebページをご覧ください。<https://ibconsortium.mext.go.jp/ib-japan/admissions-policy/>

## 2 学校生活について

Q1 校則はありますか。制服等決まりがありますか？

A1 国際高校では、現在、生徒とともに校則を含めた学校の文化をつくりあげているところです。中学校開校後は中学生にも学校づくりに参画してもらう予定です。制服は国際高校と同じ制服を使用しますが、シャツの色がブルーになります。

Q1-① かばんや靴は指定のものがありますか？

A-① 通学のかばんや靴は特に指定はありません。安全性を考慮して上靴、体育館シューズの指定をしています。

Q1-② 学校でのスマートフォン所持は認められていますか？

A1-② スマートフォンについては、電源を切った状態で所持することは認めていますが、校内での使用は禁止しています。

Q1-③ 制服のスカートを着用することに少し抵抗があります。女子もスラックスを着用できますか？

A1-③ 制服は、性別に関係なくスカートやスラックスを選択することができます。高校にはどの学年にもスラックスを履いている女子生徒がいます。

Q1-④ 制服の衣替えはありますか？半袖を夏以外にも着用できますか？ ←New!

A1-④ 本校では制服の移行時期は特に設けていません。指定された制服の中で、御自身の体調に合わせた選択が可能です。

Q1-⑤ 学習に使うタブレット端末については、家庭で用意する必要がありますか？

A1-⑤ 中学校1年生から3年生までの期間はタブレット端末（Chromebook）を貸与する予定です。高校では、タブレット端末を各家庭で準備いただくことになります。

Q2 部活動はどんなものがありますか？

A2 部活動については、現在、高校にある22の部活動のうち、中学生が参加できる部活動をWebページに掲載しています。

Q2-① 部活動は自分の希望するものがない場合、新しく作ることはできますか？

A2-① 現在、国際高校も含め部活動数を調整しているところですので、新たな部の創部は厳しい状況です。

Q2-② 部活動で中学校の試合に出たり、大会に参加したりすることはできますか？部活動目当てでもよいですか？

A2-② 国際中学校のカリキュラムでは、学習に取り組む時間の確保や地域での課外活動などを行う必要があるため、県教育委員会が策定している「奈良県部活動の在り方に関する方針」を踏まえ、活動時間を決定します。部活動だけを目当てに入学しても、期待する活動はできないかもしれません。

Q2-③ 部活動の参加は必須ですか？ ←New!

A2-③ 必須ではありません。

Q3 通学方法に決まりはありますか？自転車で通うことはできますか？

A3 特に決まりはありません。国際高校の生徒の多くは、近鉄学園前駅からバス、近鉄学研登美ヶ丘駅から徒歩で通学しています。申請すれば自転車で通うこともできます。

Q4 給食はありますか？

A4 食事の提供はありませんので、弁当を持参することになります。学校にはパンや弁当などを購入できる売店があります。また、栄養の補給を図るためミルク給食を実施します。

Q4-① ミルク給食について教えてください。

A4-① 栄養の補給を図るため、弁当を持参のうえで、一日一本の牛乳を給食として提供します。

Q4-② ミルク給食は希望者だけでなく全員ですか？ ←New!

A4-② ミルク給食は全員が対象となります。牛乳にアレルギーがある場合は、御相談ください。

Q5 国際高校と同じ施設を使いますか？

A5 国際高校生と同じ校舎で学校生活をともにします。

Q5-① 中学校の校舎イメージはいつ頃分かりますか。 ←New!

A5-① 中学校向けの校舎を建設する予定はありません。現存の高校の校舎を共有します。

Q5-② 天文台や暗室、茶室があるようですが、今も部活動などで使用できますか？ ←New!

A5-② 科学部、写真部、茶道部で使用しています。

Q5-③ 学校の設備（エアコンやトイレの和式洋式、実験器具）等について教えてください。 ←New!

A5-③ エアコンは普通教室に完備しています。トイレについては、今後、改修が進められる予定です。中学生を迎えるにあたり、実験器具についても、新たに購入をして準備をしています。

Q6 修学旅行はどこに行きますか？

A6 国際高校では、修学旅行ではなく、授業の一環としてシンガポールへのスタディツアーを実施しています。（現在は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため国内に変更。）中学校も、探究活動の一環として、カリキュラムに組み込まれたスタディツアーを実施する予定です。行き先は、学校の教育内容にふさわしい場所を今後選定します。

Q7 上級生がいなくて縦のつながりはどうなりますか？

A7 国際高校生は皆さんの入学を心待ちにしています。国際中学校・高校の教育方針では、縦のつながりをとても大切にしています。探究活動や国際交流、学校行事など、中学生と高校生が協働して学びを深める活動を計画します。

Q8 どのような学校行事がありますか？

A8 体育大会、文化祭などを高校と一緒にを行います。その他にも、世界各国の行事を生徒会主催で開催しています。

Q8-① 授業参観や懇談はありますか？ ←New!

A8-① 学校でのお子様の学ぶ姿を保護者の皆様と共有することは重要であると考えています。できるだけそのような機会を設ける予定です。

Q9 生徒会の人たちはどうやって決めますか？生徒会などは、中学校でも入れますか？

A9 中学校と高等学校の生徒会と一緒に活動をします。中学校の生徒会役員については、入学後10月頃に選挙を行う予定です。

Q10 学内でトラブル（いじめ、けんか、けが）等が発生した場合の対応方針を知ることができますか？

A10 全生徒が平和で安心して過ごすことのできるトラブルが起こらない学校づくりを目指します。トラブルが生じた場合は、保護者の皆様の理解を得た上で、生徒支援部が中心となって丁寧に対応してまいります。国際高校ではいじめ対応方針を学校Webサイトに公開していますので、御覧ください。

Q11 図書館について教えてください。

A11 とても明るくて開放感がある図書館には約二万冊の本があります。世界各国の言語で書かれた洋書や漫画もあります。図書委員が本の紹介をしているLibrary Newsが国際高校のWebページで閲覧できます。図書館での学習も可能です。一度見に来てください。

Q12 プールはありますか？

A12 学校にプールはありません。

Q12-① 中学校、高校とも水泳の授業はないのでしょうか？ ←New!

A12-① 高校では水泳の授業がありません。中学校のカリキュラムについては現在検討しています。3月の入学前説明会でお知らせします。

Q13 中学から入学した人と、高校から入学する人は、同じクラスになるのでしょうか？

A13 原則として、高校1年生では、高校から入学する生徒とは別クラスです。高校2年生からは、海外進学、文系、理系の希望別にクラス編成を行います。

Q13-① 今後も高校の募集をするのでしょうか。 ←New!

A13-① 令和5年度の入試では3クラス募集しますが、中学校1期生が高校1年生になる段階では、1クラス程度募集します。

Q14 昼休みは、何分ありますか。

A14 昼休みは12:20から13:00までの40分間です。

Q15 他の国との交流では具体的にどんな活動をするのですか。

A15 現在は主にオンラインでの交流を行っています。お互いのもつ文化や学校生活、好きな音楽など様々なテーマで交流をしています。



### 3 適性検査について

Q1 奈良県外に住っていますが、出願することができますか？

A1 中学校入学式の日までに奈良県内に転居する場合は出願できますが、事前に手続きをして承認を得ることが必要です。なお、海外在住者等を対象とした国際選抜では、居住地から通学できる場合、出願を認めます。

Q2 入学者選抜に合格した後、他の中学校へ進学することができますか？

A2 できません。合格した場合は必ず入学することを前提に受検してください。

Q3 入学者選抜に英語は関係しますか？関係があるならどの程度必要ですか？英語を学習塾等で学んでいなくても、小学校で学んだ英語の授業の範囲内で合格できますか？

A3 適性検査3において、個別面接形式で、日本語及び英語によるやり取りを行います。他の適性検査を含め、出題範囲は小学校で学ぶ内容（「小学校学習指導要領」）に基づくものです。

Q4 選考方法などにおいて「英検〇級取得」等の加点はありますか？

A4 検定取得による加点はありません。

Q5 適性検査に向けてどのように勉強すればよいですか？

A5 適性検査1、2では、文章や資料を読む力、自分の考えをまとめて言語で表現する力、筋道を立てて考える力、数理的に処理する力、観察や実験等から課題を解決していく力等をみます。いろいろなことを関連付けて考えたり、考えたことを説明したり文章にまとめたりすることができるよう、日々の授業に取り組んでください。適性検査3では、学ぶ意欲や、思考力、判断力、表現力等をみます。積極的に発言できるよう日々の授業に取り組んでください。

Q6 適性検査のサンプル問題は発表されますか。

A6 サンプル問題はお示ししません。

Q7 コロナが流行していますが、試験日に罹患していたら、どうなりますか。

A7 新型コロナウイルス感染症に罹患し、検査当日までに療養期間が終了していない場合は受検できません。別に定める日時に新型コロナウイルス対応の追検査を受検できます。詳しくは、県教育委員会のWebページを御覧ください。<https://www.pref.nara.jp/31768.htm>

Q8 入学選抜、適性検査1、2の内容について、具体的な教科、分野の発表はありますか。小学6年生で学習した内容のみが範囲になるのでしょうか。

A8 適性検査1、2の内容について、実施要項に記載のこと以外の発表はありません。適性検査の範囲は小学校学習指導要領に基づくものです。

Q9 男女の募集人員は同じくらいでしょうか。

A9 募集人員に男女の枠は定めていません。

Q10 小学校の成績は関係ありますか？

A10 適性検査1から3の結果により志願者の意欲や適性等を総合的に判断して合格者を決定します。決定にあたっては、小学校長が作成した調査書も参考にします。

Q11 青翔中と同じ問題が出ますか？

A11 青翔中学校の問題とは異なります。

Q12 検査当日の服装はどんなものがよいですか？ ←New!

A12 特に指定はありません。英単語や漢字などが書かれていない服を着用してください。

#### 4 進路・全般的なこと

Q1 国際中学校1期生は高校進学後、IBのDPに基づく学習ができますか？

A1 国際中学校では、MYPの候補校申請に向けて準備を進めています。開校当初は試行期間としてMYPと同様の教育活動を行い、IBの認定を受けた上で正式に実施します。国際高校においても同様にDP（ディプロマ・プログラム）の認定に向けて取組を進めてまいりますが、DPについては、認定校として認められた後にDPの教育活動を行うことができるため、1期生よりDPを実施できるかどうかは現在のところ確定していません。大学でのIB入試の受験やDP資格の取得のためにはDPの履修が必要です。

Q2 中高一貫校ということですが、国際高校の先生が中学校でも教えるのですか？

A2 主に国際高校の教員が中学校の授業を担当します。これにより6年間を見通した計画的、継続的な指導を実現しやすくなると考えています。現在は、国際高校所属の教員が県教育委員会の指導のもと、中学校のカリキュラムを作成しています。教員は、国際バカロレア認定に向けた所定の研修を順次受講します。

Q2-① What sort of qualifications/certifications do the native English teachers have? (ネイティブの先生はどんな資格を持っていますか?) Are they hired directly by the BOE? (彼らは教育委員会に直接雇用されていますか?)

A2-① All the native English teachers have a teaching licence (English) certified by BOE. Nara Prefectural Board of Education hires them directly.  
全員が教育委員会が授与した教員免許を有しています。奈良県教育委員会が直接採用しています。

Q3 必ず国際高等学校に進学しなければなりませんか？他の高校を受験したくなったら、受験できますか？

A3 国際中学校では6年間を見通したカリキュラム編成を行うことから、国際高等学校に進学することを前提として生徒の募集を行います。ただし、県外への転居など、やむを得ない場合には他の高等学校等へ進学することは可能です。

Q4 どのくらいの費用がかかりますか？

A4 県立中学校なので、授業料はかかりません。諸経費については、10月16日実施の授業体験の配布資料を御覧ください。詳細は、合格者説明会で御説明します。

Q5 国際高校における大学進学実績や進路方針について教えてください。

A5 現在、国公私立大学や海外大学進学も視野に入れながら1期生が受験の準備をしているところです。課題研究や探究活動を重視した国際高校の教育課程は、総合型選抜など新たな入試制度にも十分対応しています。文部科学省指定のWWLコンソーシアム構築支援事業拠点校として、高大連携を重視し、国際教養大学、大阪公立大学、同志社女子大学との連携協定締結により、探究の学びを充実し、幅広い分野の大学進学に向けて取り組むことを可能にしています。海外大学進学コースでは、株式会社アイエスエイと海外大学進学推薦制度に係る協定を締結し、個別カウンセリングによる進路指導も実施しています。

Q5-① 高校での文理選択で、文系から理系に進路変更することは可能ですか？ ←New!

A5-① 国際高等学校では、高校1年生の2学期で、文型・理型・海外進学型を選択し、高校2年生からコース分けが行われます。高校2年生、3年生ではコースの変更はできません。長期的な見直しをもった文理選択をサポートしてまいります。

Q6 大学進学を目指す場合の学習方法は一般入試に対応できるものですか？

A6 一般入試に対応できる教育課程を組んでいます。6年間にわたる深い学びで着実な学力を身に付けていきます。

Q6-① 大学の指定校推薦はありますか？ ←New!

A6-① 関西圏の多くの大学から指定校推薦をいただいています。



Q7 県内全域が校区ですが、南和地域の生徒については、寮等が整備されるのでしょうか？

A7 高等学校では、橿原市に寮が整備されていますが、中学校では整備の予定はありません。保護者とともに居住していることを応募資格としていますので御理解ください。

Q8 PTA活動はありますか？保護者は必ず参加しなければなりませんか？ ←New!

A8 国際高等学校には、育友会（All Kokusai Support）という組織があり、お子様一人一人が充実した学校生活を送られるよう、学校と密に連携し協力し合いながら様々な応援活動を行ってくださっています。全ての保護者の皆さんが必ず参加しなければならない活動はありません。生徒の活動を支援する団体ですので、ぜひ御協力をお願いします。

Q9 身体障害があつたりASDであっても適切な支援を受けられますか？ ←New!

A9 子どもたち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて校内の支援体制を整備するとともに、県教育委員会と連携しながら、取り組んでいきたいと考えています。